まるごと!西日本

@OISCA_NTC
Instagram　facebook
日頃の様子を更新中！是非チェックお願いします！

発行：(公財)オイスカ西日本研修センター　まるごと部
福岡市早良区小笠木 678-1
TEL(092)803-0311　FAX(092)803-0322
E-mail: oiscantc@oisca.org　検索　オイスカ西日本

2023 年　3 月号

チャリティゴルフコンペ開催

2 月 19 日(日)、第 15 回オイスカチャリティゴルフコンペが伊都ゴルフ倶楽部で開催されました。 当日は小雨まじりのお天気でしたが会員企業を中心に 59 名の方にご参加をしていただきました。ゴルフ終了後は各賞品及びオイスカの農産物を全員の方にお持ち帰りいただきました。当日のチャリティ収益金は 108,000 円でした。また今回の栄えある優勝者は大野羊逸様(㈱マルコ建設代表取締役・オイスカ熊本県推進協議会会員)です。おめでとうございます。今年は海外研修生も参加して皆様をお迎えさせていただきました。ご参加をいただきました皆様方をはじめ賞品のご提供を下さいました協賛企業の方々には厚く御礼を申し上げます。次回は海外研修生の発表会も出来ると思いますので、引き続きご参加をいただきますようお願いします。皆様方のご参加本当にありがとうございました。(満川)

優勝者　大野様(中央)

ワンコイン募金贈呈式

昨年 10 月より、オイスカ法人会員企業に広く呼びかけを実施していましたワンコインサポータープログラム募金について、九州電力株式会社様、株式会社九電工様の 2 社より、2 月 2 日～3 日の 2 日間にかけて、目録の贈呈式がオイスカ西日本研修センターにて実施されました。九州電力株式会社様からは、約 4900 名の社員の皆様からのお気持ちをいただき、株式会社九電工様からは約 2900 名の社員の皆様からのお気持ちをいただきました。物価高騰やコロナ禍のあおりを受ける日常生活の中で、社員の皆様がオイスカの活動に対し理解を深め温かい応援をしていただけることは、オイスカ職員、海外研修生一同にとって大きな励みとなっております。3 月下旬に海外研修生は帰国を控え、これから研修のまとめの時期に入りますが、日本での数多くの経験やたくさんの方からいただいた温かい応援を大切にしながら、母国で活躍してくれるものと期待しております。(豊田)

九州電力株式会社様

株式会社九電工様

棟上げ式餅まきに海外研修生参加

2 月 4 日(土)、研修センター近くのオイスカ会員宅の新築棟上げ式の餅まきに研修生参加をしました。午後 3 時からの餅まき行事で開始時間が迫ってくると研修生たちは待ち構えるように準備して、スタート時間に合わせ屋根からまかれる餅を素早く拾い集め、時には隣りの人とぶつかり合うハプニングもあるなど楽しく日本の伝統行事に参加をしました。研修生は脇山の皆さんと交流も深め日本での良き思い出になったと思います。帰所後はお目出たいお餅を皆でたくさん食べさせていただきました。会員の馬場様にはお招きをいただき本当にありがとうございました。(満川)

ご協力ありがとうございます！

【2 月の寄付品】(敬称略)

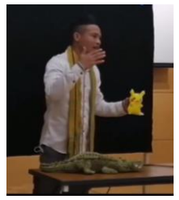
九電工、安東幸太郎、小杉裕一郎、清水利春、日本エコシステム

恵方巻作り

2 月 3 日に恵方巻作りをしました。研修生と一緒だったので大きいのや小さいのが出来て面白かったです。味も美味しく出来ました。恵方巻を食べる時は今年の方角を向いて一言もしゃべらないで食べて、願い事を一つだけすると叶うと研修生達に話すと本当に？と話してみんな静かに食べていました。私の願い事は「ミャンマーが早く平和になって、(世界中の)みんなが健康で幸せに暮らせますように」とお願いしました。(ティン)

高取公民館で民話を話してきました！

2 月 11 日(土)に、高取公民館で「世界の絵本の読み聞かせ」グループの皆様と一緒にレオニトさん(東ティモール)とシティベニさん(フィジー)の母国のこと、民話、踊り、ゲームなどを紹介しました。例年、研修生の国の絵本の読み聞かせをしているのですが、今回は母国に伝わる民話を紹介しました。シティベニさんはタコとサメの神様の戦いの話、レオニトさんはワニと少年の話を母国語でしました。言葉は分かりませんが、研修生達の一人芝居が上手で大人から子供まで楽しんでいました。またフィジーの踊りと東ティモールのゲームもそれぞれ盛り上がりました。最後の研修生達への質問では好きな果物、好きなスポーツ、日本に来た理由など様々な質問がありました。「世界の絵本の読み聞かせ」は約 3 年ぶりで今回無事に開催できて本当に良かったです。研修生も母国にまつわることを紹介できて嬉しかったようです。(園田)



3 月の予定

4 日	朝倉グリーンウェイブ植林、体験農園開始式
5 日	基山スキー大会
11 日	脇山歓送迎会
14 日	アクションプラン発表会
18 日	海外研修生修了式
22 日	研修生帰国(レオニト、ウィン、アズミン、エレヘ)
28 日	研修生帰国(リズキ)

鬼木大明神　今月の一句

思い起こせば、スタートのこのコーナーは交通安全標語を紫内し、交通事故ゼロを祈念するもので「飲んだら乗るな！乗るなら飲むな！」が第一句でした。

以後毎回私自身の行動指針として紫内続けて参りましたが、その私自身も高齢化し、今や運転免許証を返戻しなければならない日が目前に迫っております。

最後のこのコーナーに際し、一句

「資源の少ない我が国の中で“子供は宝”正に次世代の人々は大きな財産で大きな国力です。次世代の人々が主導し躍動する我が国！次世代の人々が大きな夢や希望を伸び伸びと進い続けられる我が国！！そんな我が国であり続きますよう祈念申し上げます。」

長くお読み頂きありがたく、また無礼の多かったこと深謝申し上げます。

体験農園だより

今年度の秋冬作も豊作でした！参加者の皆様からは「ハクサイ大成功」や「ニンジンが過去最大級のサイズになった」とうれしいお声をいただきました。一方で春に収穫予定のエンドウマメは 1 月下旬の寒さでほとんどが枯れてしまったようです。現在、新たに苗を育てています。何とか収穫までできたらと願っています。18 日(土)には毎年恒例のボカシづくりを実施しました。ボカシは米ぬかや鶏糞といった有機物を発酵させてつくる有機肥料です。今年は 5 名のご参加で、ほとんどがベテランの方々でしたので、手際よく仕込めました！体験農園はもちろん、当センターのお野菜はすべてこのボカシ有機肥料を使っています。普段のお野菜のお手入れだけでなく、おいしさの裏側まで学んでいただきました！(飯川)

日本語の様子

現在、2 月 13 日に入所したフィリピン人技能実習生 2 名の基礎講習を行っています。フィリピンのアブラ研修センターのフィリピン人所長から日本語を学んでおり、こちらの投げかけに対して、「はい、先生」が口癖のようになっています。時代を感じます。いつか修正したいと思います。日本語の習得はまだまだこれからですが、2 人とも慣れない寒さの中、がんばっています。

3 月に帰国予定の今年度のオイスカ農業研修生 7 名は、外部研修（種苗会社、農業機械、椎茸栽培等）で日本語を駆使してがんばっています。帰国後のアクションプランも日本語で作成しています。3 月の報告会や研修修了式での彼らの成長を多くの人に見ていただきたいです。春はもうすぐそこ！がんばれ！実習生！（立石考子）

マークさん

リオさん

農場研修風景

先日、研修生に果樹の剪定講習をハウス内にあるブドウの木で行いました。剪定はある程度の経験と技術が必要になる作業で、1 回の説明ではなかなか身につくものではないのですが、剪定のノウハウについて説明していると、研修生の食いつきは非常によく習得したいという意識が強く伝わってきて、教える側も嬉しくなってきます。帰国してから果樹栽培を手掛ける研修生には更に詳しく説明をするなど対応はしていますが、帰国後のフォローアップも SNS などを通じて継続して行っていくことが大切です。研修生の自国での状況はいろいろと厳しいものがありますが、一つでも多くの希望や可能性をもって帰ってもらいたいと思います。そのようなことを考えている中で、先ほど切ったブドウの枝から水がポタポタ落ちてきます。まだ 2 月の寒い状況の中でも、ブドウの木の中では新しい芽を成長させるために土の中から水を吸い上げる作業をしているのです。（豊田）

果樹の剪定の説明を受ける研修生

2022 年度研修生アクションプラン

ショウガとナスを作りたいです。
村の若者に農業を教えたいです。
（シティベニ：フィジー）

トウモロコシとサツマイモを作って、
それを加工してケーキやお菓子を
作って販売したいです。
（リズキ：インドネシア）

サバセンターで研修生に
有機農業を教えたいです。
村でキノコを栽培したいです。
（アズミン：マレーシア）

果樹やお米栽培の試験と
野菜の加工をしたいです。
（エレヘ：モンゴル）

ミャンマーセンターで研修生達に
農業を教えたいです。
私の村で唐辛子を
作りたいです。
（ウィン：ミャンマー）

村でキャベツと養鶏をしたいです。
ケサディップルーアクセンターで
子供の森(植林)をしたいです。
（レオニト：東ティモール）

魚の養殖と堆肥を
作りたいです。
（リー：パプアニューギニア）

オイスカ会員様紹介

今回紹介いたします法人会員企業は、長崎県諫早市にあります八江農芸株式会社です。
八江農芸株式会社は、長年にわたりオイスカの海外研修生に対し、育種や育苗の研修指導、受入れを実施していただいております。1993 年よりインドネシアのカランガニアルにて OB 研修生でもあったムルヨノ氏と契約を結び、採種事業を展開し、現在ではメロンやなどの種を輸入しています。
また、1995年からミャンマーでのプロジェクトも発足し、ヤンゴン近郊に農場を構え現在ではメロンやニガウリの採種事業を行っています。

このように世界各国で事業を展開している八江農芸株式会社は、農業の発展に大きく貢献されています。

＜会社概要＞
社名　八江農芸株式会社
代表取締役社長　八江　康弘
創業　昭和23年4月
従業員数　150 名

＜営業種目＞
野菜・花卉の育種、種苗生産、卸・海外貿易、
ハウス資材・農薬・肥料・農機・農業資材全般
家庭園芸資材・苗木・樹木・鉢物・用土
その他造園資材、園芸リース

長崎県諫早市にある八江農芸株式会社本社写真

オイスカ研修生八江農芸育種農場視察時の写真（令和2年度）

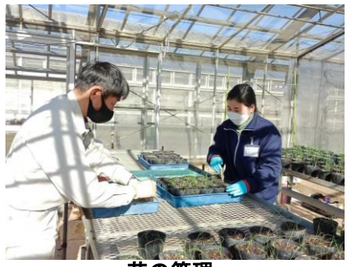
外部研修

2 月 6 日～17 日まで研修生 2 名、2 月 20 日～28 日まで研修生 3 名が八江農芸さんで外部研修を受けさせていただきました。お忙しい中、研修生のために時間を作っていただきありがとうございました。

ウィン　八江農芸さんは全部ハウス栽培だったので西日本センターと違って驚きました。メロンとニガウリの接ぎ木をしたのがとても面白かったです。

リズキ　八江農芸さんでいろいろな技術を見ることが出来ました。カボチャとニガウリの接ぎ木をしました。インドネシアでメロンと唐辛子の種を作ってみたいと思いました。

誘引しているところ



苗の管理

ひな人形を飾りました！

2 月 22 日にスタッフと女性研修生でひな人形を飾りました。昨年度は女性の研修生がいなかったので数年ぶりにひな人形を飾りました。毎月初めに、日本の伝統行事の紹介をしており写真では研修生達も見ていましたが、実物のひな人形を見ることができて良かったです！